

jlreq-d の紹介 @

JEPA

できればスライドを統合して引き継ぎをスムーズに

小林さん kicks off

- ・ とはいえ、ぼく的には、いまさらあまり話すことはない。木田さんに議長を押しつけて、木田さんが、「リフロー可能な」というキーワードに反応してくれた時点で、mission accomplishedだもんね。
- ・ 逆に言えば、このことを、従来のJLreqに対する当事者の一人としての生産的な批判として、リフレーズすることは出来るかも知れない。
- ・ なぜ、従来のJLreqではダメで、なぜ、木田さんに議長を押しつけることになったか、ってなこと。なぜJLreq_Dか、なぜ機能論的アプローチか、みたいなの。

小林さんを引き継いで背景を詳しく

木田のパート

「デジタルテキスト」とは何か

- ・ ここで言うデジタルテキストというのは、単にデータがデジタルであるということではない。
 - ・ デジタルテキストは紙に印刷されることを目的とせず、デジタルデバイスの上で完結するもの。なので例えばPDFはここで言うデジタルテキストという言葉から外れる。
 - ・ デジタルテキストは人に読まれるだけでなく、データとして処理される。
 - ・ アクセシビリティ。検索可能性。ソースコード。メールで来た予定が自動的にカレンダーに登録される。
 - ・ デジタルテキストは、表示の時まで待っていて、表示される時に組版が最終的に固定される。簡単に言うと違う環境で見るとリフローするもの。
 - ・ Web が代表的。文書構造を持っている。
 - ・ でも毎日見るメール、やプレーンテキストもデジタルテキスト。
- ・ それに対して印刷とは
 - ・ 送り手側で組版が完全に固定。単一のイメージが配布される。多くは紙。
 - ・ この話の中で印刷、と対比するとき、活字や写真植字を念頭に置く
 - ・ 印刷を生業にする人にとってデジタルデバイスは生産設備で単なる手段。私たちにとってはデジタルデバイスこそが我々が消費をし、生活活動をする場所。
- ・ 今は多くの人の身の回りのテキストの多くがデジタルテキスト
- ・ ここで相手にしたい、「デジタルテキスト」は何を指すのかがわかっていただけたと思う。

デジタルテキストって何が違うの？

モティベーションなどの前にどう違うのかを説明してコンテキスト、下地を作る

デジタルテキストって何が違うの？

- ・ 組版が最後の瞬間になるまで決定されず完全に自動的=人間がチェックする機会はゼロ、に組版が行われる=現在のルールが合わない
- ・ 開発の国際化
 - ・ 会社内で閉じた規模で可能だった組版ルールの変更が、世界中を巻き込む規模になる。工数がかかりすぎたり、必要性の説得できない機能は規格化、実装されない
- ・ 文化的変化
- ・ デジタルデバイスの特性
- ・ デジタルメディアであること自体
- ・ 新しい可能性
 - ・ 活版や印刷の仕組みに縛られた組版ルール → 新しい可能性
 - ・ 巻物の復活はすでに起こった変化の一つ
- ・

デジタルテキストって何が違うの？

組版が最後の瞬間になるまで決定されない

- ・ 配布されるもの：単一のイメージ vs 変化できるデータ
- ・ レイアウト：人の目で確認 vs 完全自動
- ・ 印刷が、目視によるチェックを暗黙の前提においていることから来る問題
 - ・ ルビの折り返し
- ・

デジタルテキストって何が違うの？

続アーキテクチャの違い

- ・ 活版は逆説的だがデジタル、とびとびの値が好き。実際の効率のため。四分空きなんて言葉はその典型例。デジタルだと数値の精度の許す限り自由にできる
- ・

デジタルテキストって何が違うの？

開発の国際化

- ・ システムが欧文の組版をベースとしている
 - ・ 欧文組版システムの中の日本語
 - ・ 国際化された環境の中での日本語。例えば Unicode
- ・ 機能追加のコストが大きい
 - ・ 世界に散らばるエンジニアを説得する必要
- ・ 絵に描いた餅。開発者を含めたエコシステムを構築する必要

デジタルテキストって何が違うの？

文化的変化

- ・ 欧文流組版の影響：行頭揃えラグ組み、パラグラフの区切り方、注の仕方
- ・ 英単語などの増加
 - ・ プロポーショナル
 - ・ 行の折り返しへの制限
- ・ 柔軟性
 - ・ フォントや組み合わせの変更、行長など
 - ・ レイアウトの一端をユーザーが担える。良いところでもありチャレンジでもあり

デジタルテキストって何が違うの？

デジタルデバイス・メディアの影響

- ・ 紙面の制約がない代わりに画面サイズという制約がある
- ・ 冊子形態の優位性がなくなる
- ・ テキストの動的挙動の定義の必要性 (e.g. ルビを含んだテキストの copy & paste)

デジタルテキストって何が違うの？

新たな可能性

- ・ 古い形式の新しい復活
 - ・ 冊子→巻物。縦スクロール漫画や縦構図の写真。新しい書籍の形？
 - ・ 文節などでの行折り返し (e.g. プレゼン?)
 - ・ 全角でない文字。書体への影響
- ・ 活版や印刷の仕組みに縛られた組版ルール → 新しい可能性
- ・ 検索、柔軟な画面構成 (e.g. web)、リンク
- ・ ラグ組みの可能性
- ・ インタラクティブな表示
- ・ アクセシビリティ

- ・ 印刷が、判型をあらかじめ決めることから来る問題はある？
- ・ 規格化、実装の支援：ルビはもういじりたくない（村田さんに聞く）

やっと jlreq-d プロ ジェクトの説明

なぜデジタルテキストを考えるか

もうここまで説明したら、モチベーションはすんなり理解してもらえる

なぜデジタルテキスト を考えるか

- ・ モチベーションを説明
 - ・ デジタルテキストに合わない
 - ・ デジタルテキストに合わないルール (e.g. ルビ)
 - ・ 複雑すぎ (具体的に)
 - ・ サポートしれない
 - ・ 組版の時代は、小さな単位で新しい工夫ができた。デジタルテキストでは国際的な規格をまず動かす必要がある
 - ・ 新しい要求
 - ・ デジタルデバイスの特性
 - ・ 新しい可能性
 - ・ アクセシビリティ
 - ・ 活版に制限された規則を破ること
 - ・ 巻物
- ・ 別の言い方をすると、現在の組版ルールは新しい体に合わない古い衣
- ・ **jlreq-d の必要性に至る重要な結論。どこで話すか**：印刷における組版ルールは、活字という仕組みの制約の元、組版作業者が美しく読みやすい組版を経済的効率性を以って作成できるように作られている。基盤となるアーキテクチャが根本的に異なるデジタルテキストは、印刷組版が立脚してきた制約を持たず、その代わりに全く異なる制約条件を持っている。また同時に新しい可能性も持っている

jlreq-d の柱を説明

- ・ デジタルネイティブな組版ルールに
- ・ 開発サポート
- ・ アクセシビリティ（新たな可能性の中でも特に）

ターゲット

- ・ README にある、対象読者や対象アプリケーションは説明する意味ある？

編集方針

- ・ README に書いたような内容

馬車→車、書写→印刷 の移り変わりの話

- ・ いまテキストは歴史上の大転換点にある。どんどん進行中
- ・ 技術史の中で、目的を同じとしながらアーキテクチャが根本から変わった例の話
- ・ 当初は前の技術の成果を真似ることに大きな努力が払われた
- ・ しかしいつまでも車は馬車の速度で走るわけには行かないし、印刷はいつまでも手書きの書籍を真似る必要はない
- ・ 同様に、デジタルテキストはいつまでも印刷を真似ることを目標にする必要はない
- ・ jlreq-d はとっかかり。転がし始める役目